

## 第五章

# 通所事業の充実へ

— 第2春日園開所は思わぬ戸惑い? —

(平成元年)

52 53 54 ~ 58 59 60 61 62 63 64 ~ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 ~

- |        |                               |                  |                          |
|--------|-------------------------------|------------------|--------------------------|
| •春日園開園 | •たんぼぼ作業所管理開始<br>•天皇陛下より御下賜金拝受 | •第2春日園開園         | •生活ホーム「とびた」設立            |
|        |                               | •生活ホーム「KASUGA」設立 | •生活ホーム「1・2号館」設立          |
|        |                               | •生活支援サービスのぞみ設立   | •つくし/たけのこ作業所運営           |
|        |                               |                  | •障害者自立支援法へ移行<br>•のぞみ移転統合 |

1、平成4年は春日園開園15年の年であった。ちょうど節目の年の4月1日第2春日園の開園式を挙げてきたことは何とも晴れがましかった。但し利用者の数は定員20名に対し9名からのスタートであった。やがて知的障害者の利用も徐々に増えていったが、その移動や行動力には身体障害しか知らぬ私たちには大変羨ましくまた、違う仕事もできるのではないかという期待感も持ったものだった。

また、送迎車両の運行も熊谷駅と比企方面の2コースを当座運行したが、利用者の増加と共にコース変更を行い現在は4コースを行っている。職員数の少ない施設であり特に春日園と合同で始業から終業まで授産は作業をするという方針だったので、送迎職員の確保にはとても苦勞し、今もその状況は変わっていない。

知的障害の方の処遇という事は勿論当時春日園では馴染のないことであつたし、多少の不安はあつた。でも、春日園にも知的との重複した方は大勢いるし処遇の目標（一生懸命仕事を）は変わることはないと考えていた。でもやっぱり考えられないような行動があつたりしたので当時の利用者で今印象に残っている出来事をちょっと紹介してみたい。

#### ①洗面所に雑巾を突っ込んでしまうA君

休み時間になると一人こそ何事かをやっているような利用者で、でも時々はいやだりもして、だからきつとはしゃぎ回りが多かったのだろう。それが洗面所に雑巾を突っ込んで水を一杯出して、水のあふれる様を喜んでのらうと思う。ここで彼の為に蛇口を外してはいけない。あふれさせたことによる害を教えなくては。

#### ②熊谷駅トイレでポーチを盗まれ鴻巣まで歩いたB君

彼は鴻巣から一人電車に乗って熊谷駅まで来て、送迎バスを利用して通所していた。ある帰りの熊谷駅構外のトイレでウエストポーチを外して用を済ませていたらしい。トイレから出るとウエストポーチが無くなっており、電車に乗れず17号を歩いて帰ったようなのである。職員は保護者からの「まだ帰らない」という言葉に驚き職員を招集し、熊谷周辺の探索や警察への届け出など行い、手分けをして夜中まで探したが結局見つからないまま、保護者から家に帰ってきましたという電話を受けたのは深夜であつた。よく無事に家に帰ったという安堵と、その能力が彼にはある・・という思いとあつたが、保護者はやっぱり無理ですと第2春日園を退所されてしまった。残念で仕方なかった。

#### ③作業中人が通るとずっと見ているC君

人に関心があるC君は職員でも見学者でも人が通るのを認めるとずくと見入ってしまう。笑顔が可愛く、卒業されたばかりでは学生気分の抜けないのも仕方ないだろう、其のうち飽きるだろうと思っていたが何時になっても収まらない。注意しても長続きしないこれも障害の特性かしら。

#### ④仕事に來ないD君

とても能力を秘めた彼は、一生懸命鍛えればきつとやりがある春日園という職場になるに違いないと思っていた。しかし、彼は休むのだ。何とか春日園に來るように入寮体験をしてもらったり、職員に自宅まで迎えに行ってもらったりもしたが無理だった。やはり通所の人はご両親の施設に対する同じ

方向の目標と協力がないと難しいケースとなる。母親だけが一生懸命通所してもらおうとしても父親がどうでもいいとなると利用者は戸惑ってしまい易きに流れてしまう。

### ⑤ 掃除がとても上手なE君

掃除の苦手な私には尊敬に値する働きである。作業中も暇が出来る周辺を掃除してくれ、木屑など箒で上手に掃くのである。何故そのようなことを行うか？という障害特性云々するよりは、きつと小さな時から行っていたのだろうし、きつと何方かに褒められたのだろうと考えたい。障害を持つ方は一般的に成功体験とか褒められることは少ないのではないだろうか。かく言う私も我が子を褒めたことは少なかつたと今になって反省しきりである。

一人一人のことを書くとき際限がないが、面白い人たちが来たなどという思いと、この人達が春日園の利用者と協働して作業が出来たらもっと高度な作業もこなせると職員たちは感じたはずである。

## 2、春日園開園15周年記念事業

記念事業として取り組んだことは①地域に15年の感謝のメッセージ（垂れ幕）を掲示する。②記念旅行として「一度は皆を飛行機に乗せよう」と沖繩へ全員で旅行する。他にも利用者との祝賀会を行なったりしたが、なんとといってもテーマは「心に夢を」。この言葉が合言葉になり、施設のその後の取り組みを決定していったのではないだろうか。

沖繩旅行は約1年半の準備計画期間をおいて平成5年12月19日～21日、利用者職員総勢114名の参加の下に実施された。施設の旅行は実施することが目的ではなく、行くまでの過程が大事だと心得ている。それは体力を付けておこうとか身だしなみに気をつけようとか、失禁を改善しようとか、或はその地で○○を買おうとか、その道程で職員は個々の処遇目標を設定し、利用者も自主的に取り組みると良い旅行ができるのではないかと考える。

初搭乗の飛行機は総勢114名を2便に分けて離陸。機内では機長の帽子をお借りしてスチュワーデスさんと記念撮影（特別サービスです）。ホテルムーンビーチに宿泊し、東南植物園や琉球村を訪れた。大半の方は初めての沖繩滞在だった為、12月なのに暖かい気候には驚いてしまい、Tシャツを買ったりアイスクリームを食べたり（車椅子のパンクもありました）此処に住みたいとの声も。

この旅行を通して職員も利用者もちょっと遠い旅行にも自信がついたと思うし、まさに旅行はリハビリだ！と思う。その後の春日園の旅行がまた大きな目標を作っていくことになったと痛感している。



▼沖縄旅行日程表

日 程

第 1 日

6 : 30 春日園発  
9 : 40 羽田空港着  
11 : 00 羽田空港発  
13 : 30 那覇空港着  
16 : 00 万座毛  
17 : 15 ホテル着「ムーンビーチ」

第 2 日

9 : 30 ホテル発  
9 : 40 琉球村着  
11 : 30 琉球村発  
12 : 00 東南植物楽園着  
15 : 00 東南植物楽園発  
15 : 30 ホテル着 フリータイム

第 3 日

9 : 30 ホテル発  
11 : 20 ひめゆりの塔着  
13 : 00 ひめゆりの塔発  
13 : 45 那覇空港着  
15 : 00 那覇空港発  
17 : 30 羽田空港着  
21 : 30 春日園着



▲川本南小学校体育館を借用しての記念式典▶

